

令和2年度

第2回 印西市在宅医療・介護連携推進会議 書面開催結果

日時：令和3年1月20日（水）資料発送（2月12日（金）意見等返送締切）

意見聴取委員12名

氏名	備考
河内 雅章	医療関係者の代表
飯塚 真司	医療関係者の代表
永井 美奈子	医療関係者の代表
佐久間 郁美	医療関係者の代表
杉山 光枝	介護関係者の代表
中田 玉枝	介護関係者の代表
伊奈 千春	介護関係者の代表
吉川 貴雄	介護関係者の代表
永田 庄吾	介護関係者の代表
結城 みつ子	介護支援専門員の代表
佐藤 鈴子	地域包括支援センターの代表
中嶋 稔	印西地区消防組合の代表

事務局：印西市福祉部高齢者福祉課包括支援係

内容

- (1) 令和2年度在宅医療・介護連携推進事業の進捗状況
- (2) 令和3年度印西市在宅医療・介護連携推進事業計画
- (3) 令和2年度第1回医療従事者連絡会報告
- (4) 救急キットの普及啓発と活用について（案）
- (5) 第8期印西市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画の概要
（在宅医療・介護連携推進会議に関する内容について）

資料1

資料2

資料3

資料4

資料5

意見・承認の有無

(1) 令和2年度在宅医療・介護連携推進事業の進捗状況

資料1

意見の有無：「ある」4件、「ない」8件

【D委員】コロナ禍の影響で、計画されていた事もなかなか進まない状況だったと思います。今、互いに顔が見えにくい、連携が不十分という現状があるのならば、このコロナ禍がそれを更に助長してしまうと思われます。今だからこそ、リモートであったり、可能な手段を考え、実行に移し連携や情報共有ができることにつながったら良いと思います。

【E委員】ア～クの項目は全て連携できる内容であり、今後の進め方において全体のゴール設定をどこにおいているのかを表記できると良いのではないかと。

【H委員】項目イ「課題の抽出と対応策の検討」②目的別ワーキングチームでの多職種連携研修企画は、コロナにより研修企画会を開催できておらず、今後の研修の有無も未定となっている。今後については、高齢者福祉課の各担当者、企画ワーキングチームとで話し合いの必要性があると考えられる。

【J委員】課題解決のための具体策は明確なので実施できるようにする。

【I委員】（意見「ない」とした上で）理解しました。意見は特にありません。

(2) 令和3年度印西市在宅医療・介護連携推進事業計画

資料2

意見の有無：「ある」3件、「ない」9件

【D委員】在宅医療ガイドブックは、市民、関係者にも共に有益だと思います。内容もですが、やはり周知方法を具体的に考えていただき、提示していただくと良いと思います。

【E委員】上記に記載した目標の具体化がここにあると理解しました。コロナが終息し、活発な議論と行動が成果を生むようがんばりましょう。

【H委員】通所介護事業所連絡会は、コロナの為6事業所のみで令和2年12月23日に開催しました。今後は、印西市内の各圏域から1事業所ずつ参加していただき、少人数での開催を検討しています。また、その際に参加した事業所より、印西市と通所介護事業所とのチャットによる情報交換が意見に上がり、印西市高齢者福祉課を含めた7事業所で試験的に取り組んでいます。

【I委員】（意見「ない」とした上で）理解しました。特に意見はありません。

【J委員】（意見「ない」とした上で）同感です。

(3) 令和2年度第1回医療従事者連絡会報告

資料3

意見の有無：「ある」2件、「ない」10件

【E委員】（意見「ない」とした上で）参加当事者であるため質問を受ける側となる。

【F委員】施設で看取りを行っていない現実もある。

【I委員】マンパワーの確保、受入れ病院の確保が必要不可欠に感じました。
受入れ施設にもよるが、看取り期状態になった時点での受け入れは困難ではない。
(入所されている方が看取り期になった場合の対応はできると思います。)

(4) 救急キットの普及啓発と活用について (案)

資料4

意見の有無：「ある」4件、「ない」8件

【D委員】救急キットに関して、市民・関係者共にどの位の方が周知しているのでしょうか。

【事務局】救急キットは、広報やHP、「印西市高齢者福祉のしおり」で周知しており、本人等の申請により配布しています。また、民生委員、包括等から必要な方に周知していただくよう依頼しています。

【E委員】①在宅で救急搬送に関わる場面が多いが、救急隊がキットの存在を求める場面がない。救急隊にはどの程度周知徹底されていますか。

②キットの置き場所として冷蔵庫は相応しくないという感想を持っています。実際は玄関の靴箱の上などに置いている方もいます。

【事務局】①救急キットにつきましては、消防本部と市で内容や配布方法について協議し決定しているものです。玄関や冷蔵庫にキットの存在を示すステッカーやシールがないことで、その方はキットを保管していないと判断していると考えられます。

②冷蔵庫は、大抵の自宅にあるものなので、救急隊が迅速な救急活動を行うために保管場所を統一しています。

【I委員】救急キットの存在を知らない人が多いと思われるため、周知に力を入れた方が良いと思います。配布数に関して白井市と差があるのは何故か。

【事務局】白井市と配布数に差が生じていることは、周知が不足していることが原因と思われるので、今後は担当者や関係機関と協力して周知に努めて行きます。

【J委員】ケアマネジャーとして、救急キットの申請を利用者に説明し勧めたいと思います。終活ノートについては、ほとんどの方が準備していない現状です。

(5) 第8期印西市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画の概要

(在宅医療・介護連携推進会議に関する内容について)

資料5

意見の有無：「ある」4件、「ない」8件

【E委員】各施策とも支持できる内容ですが、特に認知症施策の分野において、例えば認知症専門看護師でなくても、もっと身近に関われる初期集中支援チームをどの部署でどんな人たちが実行するかで成果に是非が問われるでしょう。地域に密着して行動する人達が良いと思います。

【H委員】研修会等は今後の開催方法等を考え直す必要があると思います。

【I委員】(意見「ない」とした上で)理解しました。意見は特にありません。

【J委員】(意見「ない」とした上で)期待しています。

以上